

今年度、教育学部に3名の教員が加  
わりました。様々な経歴をお持ちの先生  
方です。1面および3面をご覧ください。

宮崎国際大学マスコットキャラクター ミック

今年度大学案内に掲載されている写真

## 宮崎国際大学教育学部ニュースレター

### 教育学部の将来構想

副学長 教育学部長 福田 亘博



教育学部は、平成26年度に設置・学  
生募集を開始し、今年で9年目になりま  
す。最近では学生定員充足率が100%を  
上回り、さらに喜ばしいことには、昨  
年度の教員採用試験現役合格率は87%  
(宮崎県に限れば90%)を達成しまし  
た。県内でトップの合格率です。朝日  
新聞が出版している大学ランキング

2021年版で小学校教員養成課程を持つ国内の大学248校  
中22位にランキングされ、また文部科学省が国立大学  
法人の教職課程に毎年公表を義務付けている教員就職率  
でも72.5%に達しています(国立大学の全国平均  
59%)。このように教員養成を主務とする教育学部とし  
て、宮崎県の教育界に十分貢献しているものと自負して  
います。もちろん、学生諸君の頑張りであることは言う  
までもありませんが、本学が取り組んできた教員採用試  
験現役合格のための対策講座等が機能しているものと自  
画自賛しています。

さて、宮崎県では、今年度公務員の定年延長に伴い、  
教員採用数が減らされました。募集人員(小学校全教  
科)は昨年度(205人)に比べ、70人減の135人です。  
例年、小学校教諭を目指す受験者数はそれほど増減しな  
いことから、今年の教員採用試験競争倍率は3倍以上に  
なると予想しています(昨年度の競争倍率1.5倍)。他  
県の状況は昨年度とほぼ同じ競争倍率ですが、どの県も  
宮崎県と同様に定年制延長が始まりますので、今後採用  
者数減となり、競争倍率も増加に転じるでしょう。さら

に、中長期的には少子高齢化の  
影響で教員採用数は減少し、宮  
崎県における小学校教員の募集  
人員は10数年前と同じレベルで  
ある40人程度(競争倍率は10倍  
以上)までになると考えていま  
す。教員採用試験対策講座の体  
制を強化して臨みます。

このように我が国における公  
務員の定年延長や少子高齢化の  
時代の到来を控えて、教育学部  
では今後どのような教育体制で  
臨めばよいか種々検討してきま  
した。その結果、「少子高齢  
化」、「受験生減少」、「教員  
採用者数減少」、「地域性」、  
「将来性のある職業TOP3に  
入っている職業」等をキーワー  
ドに検討した結果、現在の「教員養成」に加えて、「介  
護福祉士」や「社会福祉士」の国家資格取得のための教  
育カリキュラムを導入し、「来る少子高齢化に対応した  
教育学部」に発展的に改組することを選択しました。今  
年度後半には、関係省庁へ手続きを行いたいと考えてい  
ます。

このように本学は教育学部としての教育の質の保証・  
向上を目指すと同時に、経営的にも学部存続のためにさ  
らなる発展を考えています。皆様には今後ともこれまで  
以上にご協力・ご支援をいただきますようよろしくお願い  
いたします。

#### 目次

教育学部の将来構想	1
令和4年度教員採用 試験対策講座	1
卒業した先輩からの メッセージ	2
在学生の声	2
教育学部教員より	3
実習を終えて	3
ワークスタディプロ グラムについて	4
学友会活動	4
入試広報部から	4

### 令和4年度教員採用試験対策講座

学生教職支援センター 杉田 康之



4月に着任しました。私は37年間の小学  
校教員生活の中で、小学1年生から6年生  
まで全学年及び特別支援学級の担任や通  
級指導教室担当の経験があります。ま  
た、ラゴス(ナイジェリア)や蘇州(中国)の  
在外教育施設にも勤務しました。さら  
に、宮崎県や宮崎市の教育委員会勤務に  
加え、4年間の遺跡発掘経験があります。校長職は9年間  
勤めました。学生教職支援センターで学生の皆さんの支  
援をします。よろしくお願いいたします。

本年度の対策講座は、世界の未来を担う子どもたちの  
夢の実現を支援する小学校や中・高英語教員としての資  
質や能力を高めるため、1年次から4年次にわたって開設  
されます。内容としては、小学校教員志望の学生には

「専門教科及び教職教養の実力養成講座(基礎Ⅰ・Ⅱ、応  
用Ⅰ・Ⅱ)」、中・高英語教員志望の学生には「中・高英  
語及び教職教養の実力養成講座」が準備されています。  
この中で、教科等を含む全教育活動に関する教職員採用  
試験対策が講じられます。

さらに、特別対策合宿A・Bでは現役教師による教員  
採用試験合格までの体験や試験対策の講話、本学教員に  
よる筆記・実技試験対策や小論文の指導のほか、二次試  
験対策として「個人面接」「模擬授業」「グループワー  
ク」などを徹底的に鍛えます。

この対策講座において、愛情と情熱・使命感をもち、  
幅広い社会性や倫理観、人間性と高い専門性を兼ね備  
え、学び続ける姿勢をもつ教員養成のサポートをしてい  
きます。

## 卒業した先輩からのメッセージ

### 学び合う仲間を大切に

高鍋町立高鍋東小学校教諭 堀 友歌  
(令和4年3月宮崎国際大学教育学部卒業)



今年度より、高鍋町立高鍋東小学校に勤務しています。3年生の学級担任として、33名の子どもたちの指導にあたっています。子どもたちとの生活がスタートして2か月が過ぎようとしています。少しずつ子どもの成長を感じています。授業中の姿勢、給食準備、掃除の仕方、挨拶の声など、良い変化に気付き、子どもたちと達成感を共有できる瞬間に、教師としての喜びを感じます。しかし、上手くいくことばかりではありません。日々、実践を振り返り、先生方にアドバイスを頂き、目の前の子どもたちに適した教育ができるよう、学んでいるところです。

教員を目指す皆さんには、学び合う仲間を大切にしてほしいです。学生時代の仲間は、現場に出た後、同じ悩みや喜びを共感できる貴重な存在です。教師として、同じように頑張っている仲間がいるということは、心強く、大きな支えとなります。4年間という貴重な時間で、仲間とともに多くのことを学んでほしいと思います。共に頑張りましょう。

### 保育者を目指す後輩に伝えたいこと

千代田幼稚園教諭 原田 怜南  
(令和4年3月宮崎国際大学教育学部卒業)



私は今、幼稚園で4歳児の担任をしています。元気いっぱいでもとても可愛い子どもたちに囲まれながら、毎日楽しく過ごしています。保育者として働き始めて2か月が経った今、私が大学生のうちにしておくといいなと思ったことを具体的に2つ紹介したいと思います。

1つ目は、模擬保育のような長時間の活動だけでなく、5~10分程で出来る簡単なミニゲームの引き出しを多くもつことです。隙間時間が出来た時にとっても役立つので、今のうちから少しずつ調べてノート等にまとめておくと思います。

2つ目は、ピアノや手遊びのレパートリーを増やしておくことです。教材研究や準備等に出来るだけ時間を使うように、学生のうちに沢山練習してレパートリーを増やしておくと思います。

後輩のみなさん、可愛い子どもたちの先生になれる日を楽しみに、学生のうちに沢山のことを学んでください。応援しています。

## 在学生の声

### 後輩のために、自分のために

教育学部3年 柿原 まなみ(熊本県立人吉高等学校出身)



私は、今年度のアドバイザーアシスタント(AA)として1年生の大学生活のサポートをしています。入学当初、知り合いが1人もおらず頼れる人がいなかった私が大学生生活に慣れることができたのは、当時AAだった先輩の手厚いサポートのおかげでした。その経験から「自分も新入生の手助けをしたい」と思い、今年度AAに採用していただきました。

AAの活動として、新入生オリエンテーション時のキャンパスツアーや履修登録のサポート、1年生とメール等でやり取りをしながらの質問・相談の対応等を行っています。AAの活動は1年生のためのものであるのはもちろんですが、相手が求めている対応・言葉を考えることができているか、共感的な姿勢で傾聴できているかなど、自分自身を見つめ直し成長できる良い機会にもなっています。

大学生活に慣れてきたとはいえ、質問・相談したいこともまだまだ出てくると思われます。今後もAAとして1年生のサポートに励みたいです。

### 新しい場所で未来に向かって

教育学部1年 塚本 修三(宮崎県立飯野高等学校出身)



私には、自ら学びに向かう児童を育成するという夢があります。子どもたちに勉強はもちろん、様々な活動を通して自らの学びを深めたり、仲間と協力して何かを達成したりするという喜びを経験してもらいたいと思います。子どもたちがそれらの経験をする中でチャンスをつかみ、自らの未来に向かえるように支援したいと思います。

そのような教員になるという夢を叶えるために、教科ごとの専門的な知識はもちろん、子どもたちの自主性を育てるための教育方法を学びたいと思います。

私が宮崎国際大学に入学するにあたり、抱えていた不安はアドバイザーの先生方や先輩方のおかげで解消されました。この場をお借りしまして御礼を申し上げます。また、理数科目が苦手な学生を対象としたゼミや、自由に練習できるピアノのレッスン室など、学生に対するサポート体制が整っていることは貴重なことだと思います。

私は4年後、教員として自分の夢を叶えるために、この素晴らしい環境が整っている宮崎国際大学で熱心な先生方のご指導の下、かけがえのない仲間たちと日々精進していきたいと思っています。

## 知識と資質を備える

教育学部特任教授・宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園長  
有嶋 誠



4月に着任しました有嶋誠です。県内の小・中学校での勤務経験があり、宮崎小学校校長で退職しました。退職後から昨年度3月まで宮崎学園短期大学保育科で教職に関する科目を教えていました。また、宮崎国際大学教員採用試験対策講座の模擬授業や面接試験対策などの指導をしていました。

今年度から宮崎国際大学の教員として、教員採用試験対策を3・4年生に、国語科教育に関する「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」を1・2年生に教えます。私の専門は国語科教育であり、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研究もしています。

ところで、皆さんが目指す教員や保育士は、とても素晴らしい職業です。日々成長する子どもの姿に感動するとともに、授業で「できた」「わかった」という子どもの素直な声を聞いた時はとても嬉しくなります。多くの教育学部生に教員及び保育士という素晴らしい職業に就いてほしいと願っています。

中でも、小中学校の教員を目指す人が受験する教員採用試験は教員としての「知識」と「資質」が問われます。「知識」は教員として必要とされる専門的な知識や技術等を備えているかであり、「資質」は教員として子どもに愛され信頼される人間性を備えているかです。宮崎国際大学の4年間で教員として必要とされる知識と資質を十分に学んでほしいと思います。

附属幼稚園長を兼務しているため毎日には大学に来ることができません。幼稚園と小・中学校勤務経験を基に、皆さんの大切な夢を叶えるお手伝いを一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

(担当教科：国語Ⅰ・Ⅱ)

## 宮崎国際大学、こんにちは

教育学部教授 石濱 博之



ご縁があり、私は2022年4月に宮崎国際大学教育学部児童教育学科に着任しました。一貫して英語教育を専門領域として研究・教育活動をしてきました。特に、30年間程、早期英語教育、児童英語教育、及び小学校英語教育の領域を中心に研究・教育活動をしました。

高等教育機関に奉職し、秋田市(秋田県)、上越市(新潟県)、鳴門市(徳島県)、滝沢市(岩手県)に異動し、郷里から一番遠い宮崎市(宮崎県)に来ました。

私が生まれ育った郷里は、名古屋市に隣接する愛知県東海市です。現在、東海市は製鉄の町ですが、私が育った頃は漁業と農業の町でした。そして、江戸時代に名君と言われた上杉鷹山(米沢藩)を教えた細井平洲の出身の町でもあります。

細井平洲の教えの一つに、「学(が)く、思(し)、行(こう)、相須(あいま)つ」と説かれています。学び、考え、実行することが三つそろって、初めて学んだことになるかと解釈されています。「学問するということは、知識を得るためだけのものではなく、学んだことを生活に生かして、よりよくしていくことが目的なのです」と述べています。宮崎国際大学の学生が様々な専門領域で深い学びをした後に、きっと実生活に生かして社会に貢献してほしいと願っています。

宮崎国際大学で一つの楽しみが増えました。宮崎学園図書館に行くことです。図書館にはたくさんのいろいろな種類の書物等があります。それらを活用して教養を高めていきたいと考えています。

もう少し働きたい老兵ですけれど、若い学生と一緒に学んで学ぶ・教える活動ができれば嬉しいです。

感謝。

(担当科目：英語Ⅰ・Ⅱ(教養科目)、英語、英語科教育法Ⅰ・Ⅱ)

## 実習を終えて

## 保育実習Ⅰbでの学び

教育学部4年 齋藤 結(宮崎県立佐土原高等学校出身)



私は障がいがある方の生活介護を行っている施設で2週間実習をしました。その施設では規則正しい生活を送ることを大切にして、一人ひとりの個別支援計画に沿った支援が行われていました。

実習を行う中で特に難しさを感じたのは利用者の方々とのコミュニケーションです。初めは、私が話しかけることで、予想外の出来事が起こったと反応し、怒りだしてしまう利用者の方がいらっしゃいました。どのようなコミュニケーションの仕方が望ましいのか、支援員の姿を見て一人ひとりの障がいの特性や性格に応じた接し方を意識しました。すると、徐々にコミュニケーションを取ることができ、利用者の方々の笑顔も見ることができるようになりました。

今回の実習で経験したことは、私の自信に繋がったと思います。実習先で行われていた個別支援について、保育現場でも生かせるよう深く学習したいと感じました。

## 保育実習Ⅰaでの学び

教育学部3年 伊地知 音々(宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校出身)



今回、保育園での実習を終えて、大学の講義だけでは得られない貴重な学びや体験を得ることが出来ました。講義で、年齢ごとの発達や遊びを学んでも、実際の子どものたちはどのような遊びをしているのか具体的に想像しにくく、大学の講座で模擬保育を行った時も、子どもたちの様子や発達がイメージできず、現場での保育を考えた実践があまりできていないと感じていました。

保育園での生活の様子を見ることで、子どもたちが楽しんでいる遊びや、年齢ごとに挑戦できるようになることが分かりました。また、保育者が生活の中で子どもたちに対してどのような声かけをしているのかも学ぶことが出来ました。子どもたちが危ない行動をしている時は、ただ危ないと伝えるだけでなく、「こうしたらどうになってしまうのか」子ども自身が考えられるような声かけをしていることに気づきました。これらの学びを将来に活かせるように、模擬保育の実践、手遊び歌、ピアノの練習など、今できることを頑張りたいです。

## 得た学びをこれからに

教育学部3年 新森 彩加(宮崎県立宮崎北高等学校出身)



私は、理数科教育基礎ゼミで学生アシスタントとして中学・高校レベルの理科・数学を教えています。主な活動内容は、事前に問題を用意したり分からない学生に個別で解説したりすることです。活動を通して事前準備の大切さに気づくことができました。準備がおろそかな時は、前に立って説明しようとしたときに何度も言葉が詰まってしまい、うまく学生に伝わりませんでした。頑張った分だけ学生の反応がよく、やりがいを感じました。

また、相手に分かりやすく説明できるように、パワーポイントを使ったり、学生同士で教え合うような機会を多く設定したりしました。内容について詳しく調べることで、自分の勉強にもなりました。前に立つことが苦手でしたが、「やるしかない!」と思い、努力を続けるとだんだん自信がついてきました。今回得た学びを大切に、事前の準備をしっかりするとともに積極的に人前に立つことを心がけていきたいです。

### ワークスタディプログラムについて

本学では学生アシスタント・ワークスタディプログラムを実施しています。学生アシスタントは授業内学習支援、課外学習補助業務等を行い、大学は業務に従事した時間を基に、アルバイト料を支払います。

## 学友会の活動を通してMICを盛り上げたい

教育学部3年 田原 太陽  
(鹿児島県立志布志高等学校出身)



私は、学友会会長として学友会メンバー19名と協力して、学生全員の思い出に残るイベントを企画・運営しています。学友会は各月ごとに担当者を決め、自分たちでイベントを企画し、準備や運営などを行っています。昨年度までに開催したイベントとしては、MICアートコンテストやクリスマス会、大学祭などがあります。季節を感じられるイベント等を通して両学部の交流を深め、思い出に残るものとなることを意識して活動してきました。

学友会はメンバーそれぞれがイベントをよくするために企画を考え、意見を言い合うことで誰もが活躍し、達成感を感じることでできる組織です。イベントを通してチームワークの大切さやリーダーシップなどを身に付けることができることも学友会の魅力であると感じています。

これからの1年間は、参加してくれた学生が楽しいと思うことのできるイベントを1つでも多く学友会のメンバーと一緒に創り上げていきたいと思っています。

MIC/宮崎国際大学の略称

## 入試広報部からのお知らせ

お問合せ先

TEL 0120-85-5931

MAIL admissions@sky.miyazaki-mic.ac.jp

## LINE相談受付中

「入試制度について知りたい」など、見学会に行くことが出来ない、という高校生・保護者の方のために、公式LINEアカウントのチャット機能をオープンしています。お気軽にお問合せください。



QRコードを  
読み込んで  
お友だち追加!



## 週末キャンパス見学会&相談会

大学について知りたい! オープンキャンパスまで待てない! という方のための週末見学会(要予約)です。詳細は本学HPで! ※予約状況によって人数を制限する場合があります。

ウェブサイトはこちらから!



### CONTENTS

10:00~12:00

- ◆学部説明
- ◆受験対策講座(任意)  
国際教養: 英語面接対策  
教育: 小論文対策
- ◆入試相談(任意)

### 第1回

6/18土

### 第2回

9/3土

### 第3回

10/1土

### 第4回

11/5土

### 第5回

12/3土

### 第6回

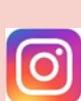
1/21土

### 第7回

2/18土

### 第8回

3/11土



宮崎国際大学

〒889-1605 宮崎県宮崎市清武町加納丙1405番地

電話: 0985-85-5931

FAX: 0985-84-3396

ホームページ: <http://www.mic.ac.jp>

国際教養学部 比較文化学科  
教育学部 児童教育学科

  
宮崎国際大学